

第6回こんな長崎どがんです会（令和4年11月9日）

テーマ：スタートアップ支援について 参加者：7人（スタートアップ支援者、スタートアップ）

主な意見	対応状況
<p>（コミュニティについて）</p> <p>行政だけの取組ではなく、起業家や学生等が参画するコミュニティと共同で、スタートアップエコシステムの構築を目指すべき。</p> <p>他県での成功事例を踏まえ、短期的な取組ではないコミュニティ間の連携を深め、カルチャーとして落とし込んでいくことが必要。</p> <p>オープンマインドなコミュニティが自主的な勉強会やマッチング、情報発信を行うなどの自走化によって、長崎県独自のエコシステムに繋がっていく。</p> <p>起業家の子育てに関しても、コミュニティが支えていく視点があっても良いのではないかと。</p>	<p>スタートアップエコシステムの構築には、スタートアップを目指す方を、投資家や先輩起業家等の関係者が支え、育てるコミュニティが必要と認識しており、R4年度から、スタートアップと投資家のマッチングイベント「ミライ企業 NAGASAKI」を開催しております。</p> <p>また、CO-DEJIMA にコミュニティコーディネータを配置し、県内各地のコミュニティ間の連携を深める取組を推進しており、R5年度から都市部のスタートアップ等との交流イベント等を通して、県外コミュニティとの連携強化に取り組んでおります。</p>
<p>（長崎県のブランディングについて）</p> <p>移住者が相互に連携した情報発信は都市部に広がりやすい。企業共同や行政を交えた情報発信は広がりやすい環境にある。</p> <p>観光資源や物産だけではなく、県全体で働き方改革やワーケーションのような新しい豊かさをアピールしていくことが必要。</p>	<p>都市部の産業交流施設において、県内スタートアップとの交流イベントの開催や、知名度が高いスタートアップのサイトで、県内の起業家等を紹介する記事を掲載するなど、県外への効果的な情報発信等を図っております。</p> <p>オフィス系企業が、将来的な拠点設立の可能性検討を目的とした離島におけるワーケーションを計画される等、企業がワーケーションを展開する動きが見られるようになっております。</p>
<p>（トライアル発注制度について）</p> <p>スタートアップは実績や知名度がないため、県が進めるプロジェクトに入り込める余地を設けるなどのチャンスが欲しい。たとえば、他県では、トライアル発注制度を導入している。</p>	<p>トライアル発注制度については、関係機関を通じて事業者ニーズの聞き取りを行いながら、効果や必要性などを検討してまいります。</p>